

J Aおおぞら かぼちゃ栽培講習会

【気象概況】

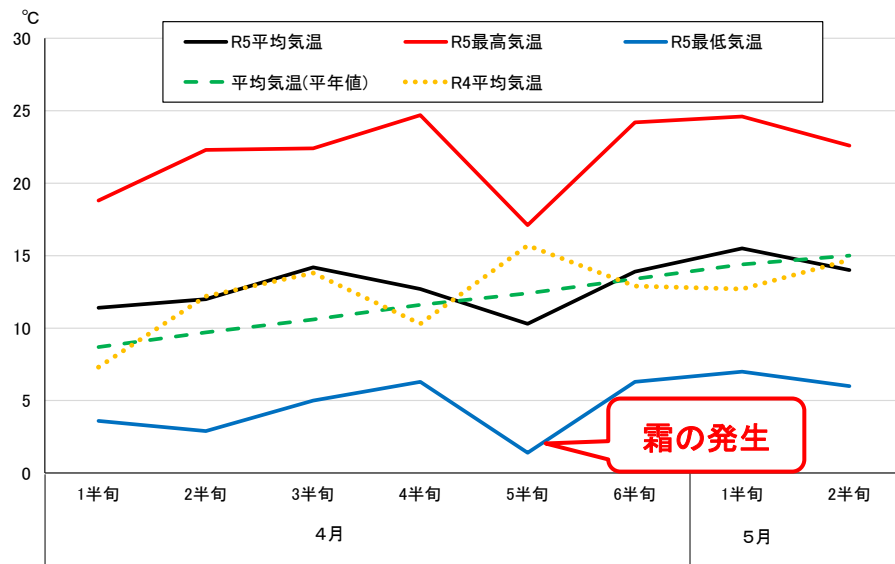
1. 気温: 4月上旬は平年より高め、中下旬は平年より低く、5月上旬は平年並だった。
2. 降水量: 4月上旬は平年より多め、中旬は平年並み、4月下旬から5月上旬は平年より多かった。
3. 日照時間: 4月上旬は平年より多く、中下旬は平年並。5月上旬は平年より多かった。
4. 注意報等: 4月中下旬に複数回、霜注意報が発表された。

【生育概況】

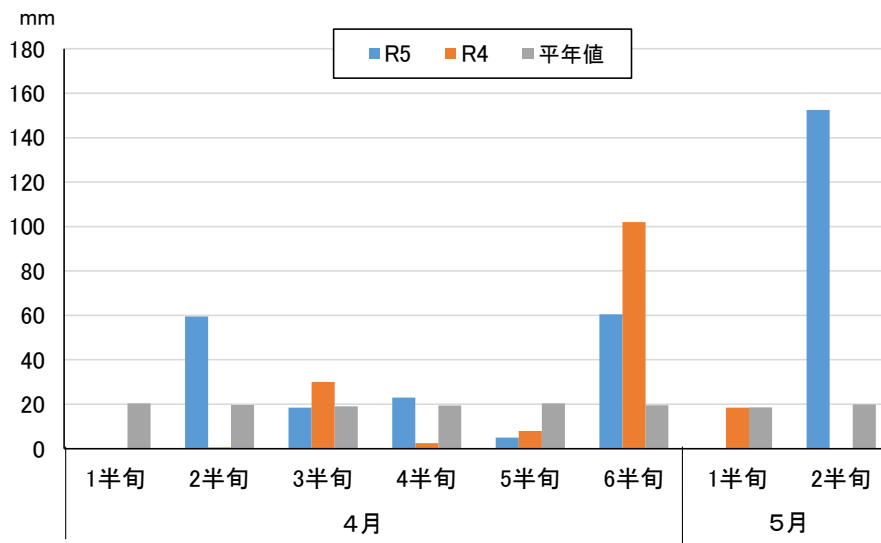
3月は好天に恵まれたが4月上旬に降雨が見られ、4月中旬～下旬にかけて定植が行われた。
4月中旬植えのビニールトンネル作型では穴あけ後に霜害による葉焼けや枯死等が散見された。
一方で不織布(アイホッカ)トンネルでは、霜害、高温等による被害は見られなかった。

【気象データ】

気温の推移 (輪島アメダス)



降水量の推移 (輪島アメダス)



【向こう1か月の天候の見通し】 北陸地方:新潟地方气象台 5月11日発表(平年比)

気温：高い見込み 降水量：平年並み 日照時間：平年並み

時期別の管理

作型図

項目	3			4			5			6			7			8			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
作型	<p style="text-align: center;">ポリトンネル</p> <p style="text-align: center;">┌──────────┐</p> <p style="text-align: center;">│ │</p> <p style="text-align: center;">└──────────┘</p> <p style="text-align: center;">不織布トンネル</p> <p style="text-align: center;">┌──────────┐</p> <p style="text-align: center;">│ │</p> <p style="text-align: center;">└──────────┘</p> <p style="text-align: center;">× ← → × ○ ← → ○ ★ ← → ★ ────</p>																		
作業内容	播種	(育苗管理)			摘心	トンネル換気	追肥①	整枝	トンネル除去	人工交配②	追肥	台座敷き	日焼果対策	(病害虫防除)			収穫始め③	追肥	2番果収穫

1. トンネル除去後の予防防除 ※別紙、防除体系(例)を参照

(1) 褐斑細菌病

株元の葉から発病し、つる先に向かって葉が次々枯れあがる。降雨により進行していくので、Zボルドー^注を散布し蔓延させないようにする。(防除は予防～発生初期の散布が基本)
^注銅を含むのでクレフノンを混用(100～200倍)して薬害を防ぐ。



褐斑細菌病の病斑

(2) うどんこ病

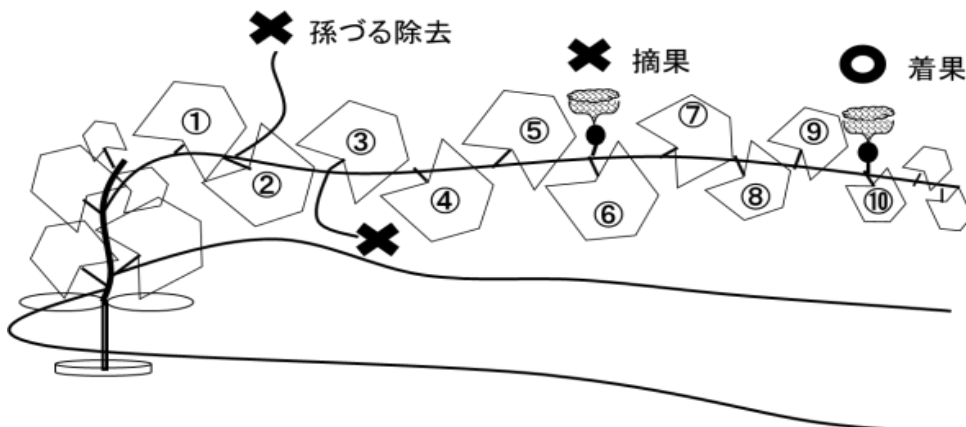
株に負担がかかる着果期前後から発病することが多く、草勢が低下すると蔓延しやすい。発生後の防除に限界があるので、多発させないように、予防防除をしておくことが重要。

2. 交配前の整枝、摘花と摘果

(1) 整枝(つる傷の防止)

着果節とそれより下の節から発生する孫づるは除去する。また、後から出てきた貧弱な子づるも除去する。

(2) 8～9節目より低節位の雌花および幼果は早めに摘み取る。(変形果になりやすいため)



図：整枝・摘果・着果位置の目安

3. 交配

(1) **10～15節注**(株元から**120～180cm 付近**)に雌花の開花が揃ったタイミングで一斉着果させる。

注) 草勢が弱い場合は摘果し、15節付近から上の高節位置着果を目指す。

(2) **人工授粉注**は朝**5時頃**から花粉の有無を確認し、**遅くとも9時まで**に終える。

注) **ミツバチの活動が鈍い時は特に重要**



図：人工授粉の作業手順



筆による交配

・交配日が降雨となる場合は

ア. 前日に雌花へ紙コップ(または小袋)をかけ、雄花を夕方に採取し、萎れないように水に差して暗い室内で開花させる。

イ. 開花当日、雌花の紙コップ(または小袋)を外し、濡らさないように交配する。降雨が続く場合は翌日まで紙コップをかけたままにしておく。



4. 追肥(2回目)と液肥の葉面散布(草勢の維持)

(1) 6割程度の子づるで交配が終了し、着果が確認され始めたら、つる先に追肥を行う。

(例: NK17号 20kg/10a等)

※草勢が弱い場合は追肥時期を早め、強い場合は遅らせる。

(2) 葉色が薄い場合は、液肥または尿素を400倍に希釈し、夕方に葉面散布する。

5. 台座敷き

台座は**果実がソフトボール(または大きめのリンゴ)程度**まで肥大したら敷く。

※果実につるが乗っていると傷果の原因になるので向きに注意する。

6. 日よけ(日焼け果防止)

白色クラフトテープを直射日光が当たる部分に貼り付ける。

(新聞紙で日除けするより時間が短縮できる)

登熟が進んでくると、短い晴れ間(高温)でも日焼けしやすいので、計画的に作業する。

交配3週間後より、肥大し果皮色の濃いものから順次行う。

※気温が概ね28度を超えると、葉が萎れ果実が露出するので、若干果皮色が淡くても行う。

※R4年産えびすでは風乾中に**裂果**が発生したケースがあるが、

収穫期の高温・乾燥続きでの日焼け+その後の雨での二次肥大で発生した可能性があるので、**日焼け対策を徹底する!**



7. 梅雨の降雨対策

ゲリラ豪雨に備えて、可能な排水対策を行う。

- ・排水溝を点検する。(崩れたり、ふさがっていないか? 雨後、いつまでたっても排水溝に水が滞水していないか? 等を確認)
- ・周囲が傾斜地の場合は、外部(農道など)から流入する雨水を逃がすため、溝を切るか流入の危険性が高い場所に土盛りをして防ぐ。

8. 試し切り

- (1)雌花開花後、約40日経った果実で試し切りする
- (2)開花日、草勢により熟期が異なる(草勢が強いと熟期は遅れる傾向)
- (3)ほ場ごとに、着果位置・大きさが標準的な果実を用いる

黄色い蛆(カボチャミバエ)が寄生した果実を発見した場合は地中深く埋める。(そのまま廃棄しない)

9. 病害虫防除については別紙 防除体系(例)を参照